



# 令和6年度 福島県立須賀川支援学校医大校 学校経営・運営ビジョン最終評価

**校訓**  
健康・友愛・感謝

**児童生徒像**  
・明るく 強く 生きる人  
・自ら学び 考える人  
・心豊かで 思いやりのある人

**教育目標**  
○ 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。  
○ 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。  
○ 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

**学校像**  
・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校  
・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校  
・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

**教員像**  
・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員  
・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員  
・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

**< 今年度の努力目標 >**  
児童生徒一人一人の状況に応じて、医療との密接な連携のもと、環境を調整し、教育活動を展開することによって、自己に向き合い可能性を伸ばしながら生きていこうとする力の育成に努める。

**< 学部目標 >**  
**【小学部】**  
・医療や家庭との連携のもとに、児童の状況を理解し、個に応じた最適な学びを  
実践することで確かな学力を育成する。  
・地域の教育資源を活用しながら、友達や教員とのかかわり合いや学び合いを通  
して自己と向き合い、自分らしく生きていこうとする力を育成する。

**< 学部目標 >**  
**【中学部】**  
・医療・家庭及び教員間の連携のもとに、生徒の心身の状態や学習状況を把握し、  
一人一人に適した学びの保障を行うことで、確かな学力を育成する。  
・一人一人の多様な状況に応じて環境を調整し、生徒が心身の状態と向き合うこ  
とができるように、病状に応じて自己管理する能力を育成する。

**健康** 体 明るく 強く 生きる人  
病気を理解し、健やかな体の育成をめざします  
○健康・安全教育の充実  
【児生：A 保：A 医療：A 教：A】

**友愛** 知 自ら学び 考える人  
教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします  
○学びに向かう力の育成【児生：A 保： 医療：A 教：A】  
○病弱教育の専門性の向上【教：A】

**感謝** 徳 心豊かで 思いやりのある人  
豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします  
○自己管理能力の育成  
【児生：A 保：A 医療：A 教A】

各種計画 目標

学部目標・学級目標

入学

転入学

転出

卒業

小学部

中学部

**【生徒指導・安全教育係】**  
生活調べの結果や担任等の情報提供により、児童生徒の実態把握に努めた。また、退院後の生活も見据えて、保健指導係や防災・いじめ防止委員会等の校内組織、及び県立医科大学附属病院、警察署等の外部機関と連携しながら年齢相応の健康や安全に関する適切な指導を行った。  
**【保健・食育指導係】**  
学校三師と連携し、環境検査や学校保健委員会を行い、学校の衛生環境維持と感染症拡大防止に取り組んだ。外部講師や学校薬剤師を講師に招き、児童生徒の実態に応じた栄養講話や薬物乱用防止教室を実施し、健康教育と食育を効果的に進めた。

**【小学部】**児童の心身の状態を踏まえ、各教科のねらいに応じて地域の教育資源を活用し、学習意欲の向上や学習内容の理解につなげることができた。今後も各教科の指導の連続性や関連性を意識し、実際に体験できる機会を工夫して環境を整え、学習意欲を引き出し、学びが積みあがっていくような指導に努める。  
**【中学部】**生徒の治療計画や心身の状態に合わせて、同時双方向型の授業配信や病棟・病室での個々に応じた対面指導に努めた。さらに、合同学習や体験的な活動、ICT機器を効果的に活用し、学びの環境を工夫することで学習の幅を広げることができた。  
**【研修部】**医療と連携して研修会を実施し、児童生徒理解を深めることができた。また、児童生徒のニーズや教員の指導上の課題を踏まえたテーマを設定して研修することで、専門性の向上に努めることができた。  
**【情報部】**情報研修会で学んだことを生かして授業で機器やアプリを活用し、情報の取り扱いや著作権などを今まで以上に意識してICTを効果的に活用した指導実践力の向上に努めることができた。

**【小学部】**  
学習発表会や児童生徒会活動では、それぞれの状況に応じて参加し、自分の意見を述べたり、友だちの意見を聞いたりしながら活動内容を決定・共有していく等、他者と協力して活動し、よりよい会にしようとする姿が見られた。引き続き児童の心身の状態を考慮し、児童が他者とかかわりを持てる機会を工夫して設定しながら豊かな心の育成に努める。  
**【中学部】**  
生徒が内面にもっていることも表出できるように、個々に応じた支援を行うことで、生徒たちは言葉で自分の体調や要望を伝えることができるようになってきた。さらに、定期的に情報を共有する場を設定するなどして、学部教員全員で生徒に関することを共有し、多角的に実態を捉え、日々、生徒の長所を生かし課題点を意識して生徒とかかわったり授業を展開したりできた。

**センター的機能の充実** ～ 入院・治療中の児童生徒のニーズに応じた指導の充実をめざします ～ 【保：A 医療：A 教：A】

就学前から高校生段階までそれぞれのニーズに合わせ、医療関係者、在籍校と連携しながら相談や学習支援を実施することができた。今後も、医大校の啓発や、復学に向けての原籍校と保護者をつなぐ役割といった医大校のセンター的機能の在り方について検討をし、切れ目のない学びと支援の提供に努める。

(評価対象は児童生徒、保護者、医療関係者、教職員 評価は4段階 A:達成できている B:少し達成できている C:あまり達成できていない D:達成できていない E:評価の機会がない)